

令和2年度 県立下館第二高等学校自己評価表

目指す学校像		文武両道を目標に、心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人材を育成する。 教育活動全体を通じ、自発的な学習意欲や自律の心、途中で諦めない精神力を醸成する。 マナー、絆、助け合うことの大切さ等道徳教育を推進する。 教育活動において、学校安全を意識した学校づくりを推進する。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
成果	進路指導においては、東京学芸大学、茨城大学、茨城県立医療大学など国公立大学に10名、法政大学、東洋大学など私立大学に延べ232名が合格を果たした。また、県立中央看護専門学校、県立つくば看護専門学校など、医療系専門学校に22名が進学をした。その他、短期大学や専門学校を含めると95%が進学をしている。また、就職希望者においても、茨城県警、筑西市役所などの公務員をはじめ、金融、製造など一般企業への就職をすることができた。 進路講演会やガイダンス、課外授業や模擬試験などの実施や、個別面談などによる個々への対応が、各生徒の適正に沿った進路実現につながった。また、挨拶の励行や服装に関する指導など、生徒指導面での細かな指導が、落ち着いた学校生活の充実に結びついた。	・学習意欲の高揚と学力の向上	各教科の特性に応じて、アクティブラーニングの視点から授業を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を工夫する。特に、「総合的な探究の時間」を充実させ、教科横断的な学力の向上を図り、地域に貢献できる人材育成の基礎とする。公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、生徒の実態に応じた選択授業（習熟度別授業等）などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。	A	
		・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実	挨拶や清掃を励行し、遅刻や欠席について対前年比10%減を目指し、正しい服装や基本的な生活習慣の確立を図る。また、交通安全教育を推進し交通事故の絶無に努める。	A	
		・キャリア教育の充実	キャリア教育の年間計画に基づき、計画に沿った進路行事を実施する中で、望ましい職業観・勤労観を育成する。生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。	A	
		・環境教育の充実と特別活動の活性化	学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。生徒会活動や部活動を通して社会性を高める。筑西市と連携を深め、地域貢献活動を行いながら豊かな情操を養い、明るく活力ある学校づくりを推進する。部活動加入率70%以上を維持することを目標とする。	A	
		・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成	自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。 “下館二高3Aプラン(Assess, Act, Achieve)自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。	B	
課題	新しい学力観に応じた学力の向上が課題である。教科横断的な指導、キャリア教育と連携した指導、ICTの活用などを通じ、生徒の学習意欲の喚起や学力の定着を目指した具体的な方策を講じて改善を図りたい。また、「総合的な探求の時間」を通じ、地域と連携した探究活動を充実させ、主体的に課題を見つけ出し解決していく姿勢を養うとともに、地域に貢献できる人材育成を図る。 生徒指導においては、引き続き挨拶の励行や服装指導に取り組むと同時に、「心の教育」や「生きる力」の充実を図り、生徒の人的成長を促していく。	・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上	関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。 学校安全委員会を年2回開催し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。	B	
		・働き方改革の推進	学校行事の精選を図る。 業務の効率化を図る。 部活動指導の在り方などの見直しを図る。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教	国語	学力の向上を図る。	生徒の実態と進路希望に対応した授業内容を展開し、希望者には課外授業を実施する。 学習評価においては、観点別に評価する。 小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	A B B	学習意欲の喚起 家庭での学習習慣を定着させる。
		自学・自習の習慣を身につけさせる。	週末や休業中に課題を出し、適宜点検し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	B	
科	地歴・公民	生徒の進路希望に応じた学力の向上に努める。	定期考査による生徒の学習状況確認、小テストや確認テストを行い、学習到達度を把握し、今後の指導に生かす。 生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。 生徒の進路実現のための各種模擬試験等に対しては、試験対策・解説授業を展開する。	A B B	外部講師を招いた体験的な授業を検討する。 ICTを効果的に活用した授業の展開を目指す。
		広い知識と理解力の向上のために、授業の改善に努める。	教科会を定期的に開き、授業実態の把握と指導方法や授業内容の改善に努める。 高校教育研究会等の各種研修会に参加し、情報の共有や自己研鑽に努める。	B B	
			必要に応じて外部講師等を引き、知識の有用性を認識させるため体験的な学習を展開する。	B	
				B	

教 科	数 学	学力の向上を図る。	生徒のレベルに合った授業展開をし、理解力を上げる。	B	A	ギガスクールに対応した、ICT活用について研究する。
			課外授業を通して、学力の向上を図る。	A		
			朝学習や小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図る。	A		
		家庭学習の定着に努める。	定期的課題を与え、家庭学習の定着を図る。	B	B	
	理 科	生徒の進路希望に応じた基礎学力の向上を図る。	生徒の進路希望に応じた授業内容を展開し、大学等進学希望者には課外等を実施する。	A	A	実験をどのように実施していくのかを検討する。
			休業中には課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A		
			実験を適宜実施し、興味・関心を高め、協力しながら学びあうような授業の展開を図る。	B		
			学習評価においては、観点別に評価する。	B		
		視聴覚教材やICTを活用し、興味・関心の高揚を図る。	ビデオやDVD等の視聴覚教材、またはICTを利用した授業を展開し、生徒の学習意欲を高揚させる。	B	B	
	保 健 体 育	体力・理論を実技に生かし、自己の身体を発達・向上させ、その方法を身につけ、生涯を通じて運動ができる能力を養わせる。	生徒の興味・関心の持てる種目を取り入れる。	A	B	簡易ゲームやスキルテストにおいてルール等を具体的にし、生徒の理解を深める。
			各種目の練習の仕方、ルールや審判の仕方の理解度を確認する。	B		
			学習評価に於いては、観点別に評価する。	A		
自分に合った練習によって技能や記録の向上を図る。			B			
芸 術	個別指導を充実させ、個性的・創造的な表現の能力を伸ばす。	生徒の実態に応じた授業選択を取り入れる。	B	B	ICTを活用した教材・教具について研究し、技能の向上や表現活動を行う。	
		課題制作や実技テストを通じて、生徒一人一人の能力や到達度を把握する。	B			
		評価においては、観点別に評価する。	B			
	伝統文化への理解を深め、鑑賞能力を育成する。	作品発表を通して、互いに鑑賞し合う場を提供する。 視聴覚教材等を活用し、名作を鑑賞する機会を取り入れる。	B	B		
英 語	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、英語の基礎学力の向上を目指す。	生徒の実態に応じた授業展開を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。	B	B	生徒の学力低下にコロナ禍が重なり、十分達成できるレベルには至っていない。今後はICTの利用や学力差のある生徒に対応する工夫が必要となってくる。	
		週末課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A			
		小テストを通して、学習理解度を確認する。	B			
		リーディングマラソン等で洋書を読む機会を奨励し、主体的に英語を学ぶ姿勢を養う。	C			
		英語検定やGTECなど資格取得を奨励する。	B			
	課外授業、土曜講座等を実施して学力向上を図る。	B				
	自学自習の習慣を身につけさせる。	課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。	A	B		
家 庭	家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。	個々の生徒の実態把握に努め、興味・関心を高める授業展開を図る。	B	A	実践的な態度や能力を身につけさせるための工夫を図る。	
		作業や実習を取り入れ学習効果を高めるとともに、ホームプロジェクトで実践的な能力や態度を身につけさせる。	A			
		実習やグループ学習を通じて、男女が協力して創造する態度を育み、キャリア発達を図る。	A			
情 報	コンピュータ操作に慣れ、情報の基本的表現処理能力の向上を図る。	ワープロ・表計算ソフトを用いて、簡単な文書作成・データ集計ができるよう知識や技術の向上を図る。	A	A	生徒の学習意欲を観察しながら、課題、評価につなげるように指導する。	
		課題提出を定期的に行うことにより、生徒の理解度を確認する。	A			
		学習評価に於いては、観点別に評価する。	A			
		放課後コンピュータ教室の開放日を設け、生徒が自ら実習できるよう援助する。	C			
教 務	学校行事・日課の適切な運営を行う。	各校務分掌、学年などと連携しながら年間行事予定や月別行事予定を作成し、日課を計画的に運営する。	A	A	・工夫した授業研究による基礎学力の定着と学習意欲の喚起を図る。 ・新学習指導要領に対応し、本校教育目標に即した教育課程作成。 ・出席簿等諸帳簿の見直し。 ・部員間の密な連絡、ICT活用による業務の効率化。	
		学校行事や集会等の内容等を検討し、効率的な学校行事の運営に努める。	B			
	授業時間の確保と生徒の学力向上を図る。	出張等の授業交換を適切に行えるよう授業交換簿を適切に管理し、授業交換の情報提供に努める。	A	A		
		学校行事等に伴う特編授業を編成し、授業確保に努める。	A			
	諸帳簿・諸用紙の整備と保存、記録の正確化を期す。	学習成績等の情報の有効活用を目指す。	B	B		
教職員が使用しやすいよう定期的に諸帳簿等を整備し、適切に管理する。		B				

情報管理	校内LANの適正な運営を行う。	校内LANの運用方法やセキュリティの強化に努め、様々な情報の適正利用を推進する。	A	A	・校務支援システムやGsuiteの使い方についての理解を深める。 ・ホームページの掲載内容について担当各部に働きかける。	
		校務支援システムの運用を推進し、正確な成績処理や個人情報の整理に努める。	A			
	情報機器を利用した学校業務の効率化を推進し、生徒の適正使用を支援する。	生徒の情報機器利用について、有効的で安全な活用が出来るように支援する。	A			
		ホームページを適切に管理・運営し、学校内外に対して様々な情報を提供する。 学校業務の効率化を図るため、関連する備品等の適切な管理に努める。	B A			
特別活動	学校行事・部活動を通して望ましい人間関係を形成し、連帯感のある豊かで充実した学校生活を送る	球技会・体育祭について生徒主体の企画運営を行う。	A	B	・新たな学校行事のあり方について生徒とともに模索し、生徒主体の運営を支援する。 ・各種行事への生徒の安全な参加方法を確立する。 ・部活動における生徒主体の自主的な運営を目指す。	
		各学校行事の意義を理解させ、全員参加を目指した指導を徹底する。	B			
		学校行事を通して、クラスの連帯感を強め、生徒の協調性を養う。	B			
	特別活動を通して、自主性・協調性を養い、協力して諸問題を解決しようとする実践的態度の育成を図る。また、「キャリアサポート」を活用し、活動の蓄積を行う。	学校行事の充実と向上を図る生徒会活動は、生徒主体による企画運営を行う。	A			
		生徒が部活動に積極的に参加できる環境を作り、部活動加入率70%以上を目指す。	A			
		生徒の自主的・自発的な活動が促進できるよう顧問が適切な援助指導を行う。 目標を持ち、最後まで努力することで、成就感や達成感を体験させる。また、その活動を「キャリアサポート」に記録させる	A B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立、挨拶の励行に努める。	朝の登校指導において、挨拶の励行・きちんとした制服の着用を促し、より良い習慣を身につけさせる。	A	A	・登校指導において、挨拶や服装等、基本的な生活習慣が身につけてきている。ただし、特定の生徒の遅刻が目立つなど、時間に対する意識をもっと高める必要がある。 ・コロナ禍により全校での集会が実施できず、登下校時の交通マナーやルールの遵守など、交通に対する意識付けを徹底していく必要がある。	
		職員による校内外巡視指導を実施し、問題行動の未然防止に努める。	B			
		全校集会・学年集会・HR等でモラル教育を徹底し、規範意識の確立を図る。また、服装・頭髪の正常化を目指し、段階的な指導を行う。	A			
		貴重品の管理及び教室や自転車の施錠を徹底し、盗難防止に努める。	A			
		チャイムによる始業や授業開始の徹底をはかり、時間を守る意識を確立する。	B			
	交通安全教育の推進と事故防止に努める。	全校集会や学年集会・HR・校外登校指導等において、交通マナーの意識高揚を図る。 交通講話やバイク実技講習会を実施し、交通規則の遵守と命の大切さを呼びかける。	B B			B
家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。	地元教育委員会や警察と連携し市内の巡回指導を計画的に行い、問題行動の未然防止を図る。 家庭・地域社会・関係機関と連携して、生徒が自ら校則や社会のルールを守り、公共マナーを身につけるための活動をする。	B B	B			
進路指導	生徒が自ら任り方・生き方を考え、主体的な進路選択ができるように支援する。	各年次で進路講演会を実施する。また1年次は夢ナビライブに参加、2年次は大学見学会を実施する。 本校卒業生の受験報告会を実施する。	B	B	・就職・公務員希望者に対して早期指導を行う。 ・3年前期の模擬試験の在り方について検討する。 ・コロナウィルス対策などで進路行事の実施の有無や方法にも制限があったので、今後の実施方法についても早めに対策を考えておく ・学習時間の把握をする。 ・スコア手帳の活用法を共有する ・課外参加を促す。	
		医療系出張講座を実施する。	A			
		2年次でインターンシップ（教育・保育系・公務員など）を実施する。	B			
		ブライトホールの利用を促し、自学自習の習慣の確立を目指す。	B			
	多様な生徒の実態に対応できるキャリア教育指導体制の確立を図る	進学希望者に対して多様な課外講座を開設し、内容の充実と参加率の増大を目指す。 公務員・就職希望者に対して、指導を早期に行い、意識の高揚と進路実現に努める。	B B			B
		進路情報を充実させる。	「進路の手引き」を発行し、進路情報を積極的に提供する。			A
			「進路だより」を年3回程度発行する。			A
進路指導閲覧室の利用促進を図る。 前年度入試結果の情報を活用する。	A A					
保健厚生	心身の健康を自己管理できる能力の育成	健康の保持増進に関する情報を発信し、健康に対する意識の高揚を図る。	A	A	・保健管理や保健指導を徹底し、感染症予防に努める。 ・感染予防のための環境整備に努める。 ・防火・防災計画の充実を図る。 ・専門家との連携を図り、個々の生徒に合った支援を行う体制を構築する。	
		各学年との連絡を密にし、生徒の健康状況を把握することにより、適切な保健指導を行う。	A			
	清潔な教育環境の確保と安全確保に努める	安全・美化点検を定期的実施し、危険箇所・設備の状況確認を行う等、環境整備や環境美化に努める。	A			
		教室内の空気・照度検査、飲料水の水質検査を定期的実施する。	A			
		各委員会活動をとおして、校舎内外の環境美化に努めるとともに、美化意識の高揚を図る。	B			
	教育相談の充実	防災避難訓練をとおして、防火・防災の意識を高めるとともに、危険回避能力を身につけさせる。	B			
定期的情報交換会を行い、情報の共有を図り、早期対応に努める。 専門家との連携を図り、性教育指導や心の教育を実施するとともに、相談しやすい体制を確立する。		A B	B			

図書	自学学習を支援するために、図書の充実を図る。また、明るく開放的な図書館を目指し、利用の促進を図る。	資料の廃棄及び更新を適切に行い、利用しやすい環境を整える。	A	A	・授業等で利用するための資料収集と、wifi環境の整備 ・読書会の充実、図書館便りの工夫など、より主体的な委員会活動	
		生徒や職員のニーズに対応できる資料の収集に努め、学習活動や進路実現を支援する。	A			
		授業等で利用できる資料を揃える。	B			
	生きる力を身につけるための支援として、読書の推進を図る。	生徒・職員の希望図書を購入し、「新着図書案内」を発行する。	B			
		「図書館だより」を発行し、図書館行事や生徒等の読書体験を紹介する。	B			
	図書委員会主催の読書会を開催し、他の意見を理解する姿勢を身につけさせる。	A				
渉外	PTA総会など各種行事への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	家庭と学校が連携を図り、生徒一人一人の健全な育成を図る。	B	B	・PTA活動のさらなる活発化 ・PTA総会の出席率向上 ・ウィズコロナ時代のPTA行事のあり方の検討	
		PTA総会、各支部会活動を通して各支部の機能が十分発揮できるようにする。	B			
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA便りを年2回発行する。	C			
		PTA活動の活性化のため、会員相互の親睦と研修の機会を設定する。	B			
第1学年	基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	遅刻・欠席・早退の減少を図るとともに、自己管理意識の育成を図る。	A	A	・挨拶や期限を徹底する。 ・進路実現に向けた学習の取り組みを促す。 ・公共マナーの遵守などが課題であったが粘り強い指導で改善が見られる。 ・クラスを超えて横断的に指導できていて指導内容も一貫していた。 ・コロナ禍で生活、学習指導が不十分であった。	
		服装・頭髪指導の徹底を図り、高校生らしい身だしなみを身につけさせる。	A			
		挨拶の励行やルールの遵守等、規範意識の高揚を図る。	B			
	進路実現のための主体性を高め、学習習慣を確立させる。	授業を大切に、予習・復習等の家庭学習習慣の定着を図る。	B			B
		LHRや進路行事を有効に活用し、自己目標の設定等、キャリア意識の高揚を図る。	B			
		定期考査・模擬試験等の分析を行い、学年の状態を客観的に把握する。	A			
学校行事や部活動へ積極的に参加させる。	部活動の加入を促し、充実した高校生活を送れるようにする。	A	A			
	学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせる。	B				
第2学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	家庭との連携を密にし、欠席・遅刻・早退の減少を図る。	B	A	・オンライン授業の整備や学校行事の精選。 ・様々な進路に応じた指導のあり方。 ・何事にも自発的・積極的に取り組む意欲を高める。	
		服装・頭髪指導の徹底を図る。	A			
		挨拶の励行やルールの遵守等、規範意識の高揚を図る。	A			
	基礎学力の向上や学習習慣の定着および、進路目標の明確化を図る。	予習・復習等の家庭学習を習慣化させ、基礎学力の定着を図る。	B			B
		LHRや進路行事の有効活用および個別面談を通して、進路目標の明確化を図る。	A			
		定期考査・模擬試験の学習目標を立て、自主的・計画的に取り組む姿勢を養う。	B			
特別活動などに積極的に参加させ、自ら考え行動する姿勢を養う。	部活動・委員会活動などの参加を促し、中堅学年としての自覚を持たせる。	B	B			
	学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせる。	B				
第3学年	希望進路の実現に向けた意識を高めるとともに、進路指導の充実を図る。	多様な進路希望や入試方法を把握し、個に応じた細やかな指導を行う。	A	A	・多様な進路希望に対する指導を1年次から計画的かつ組織的に行う。 ・主体性や自己表現力を養う活動や指導方法の検討が必要である。 ・社会人としての規範意識をより一層育むための方策を考える必要がある。	
		学年・進路指導部・保護者との連携を密にし、計画的かつ組織的に指導する。	A			
		目標設定や学力向上等、生徒の主体的な取り組みを促し、早めの準備をさせる。	B			
	最上級生としての模範となる行動および特別活動への積極的な参加を促し、高校生活の充実を図る。	基本的な生活習慣の確立・校則遵守等、規範意識の高揚を図る。	A			B
		部活動・学校行事等での積極的な活動を促す。	B			
		学校生活全体を通して、より良い人間関係の構築を図る。	B			
規範意識の確立を図るとともに、社会人としての資質を育む。	社会のルール・マナーを守る態度を育む。	B	B			
	様々な活動に主体的に取り組ませ、自己の言動に対する責任を自覚させる。	B				

※評価基準: A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない